

私を支えてくれている税金

向日市立勝山中学校1年
山本 唯乃

『税金』そう、これは私を支えてくれていると深く実感している。

普通の中学生は『税金』と聞いても、働いている大人が納めるもので、それが何に使われているか深く考える人は少ないのではないだろうか。私もその中の一人だった。

しかし、小学五年生のある日、私は激しい腹痛に見舞われ、それが何日も続き、治るところか益々ひどくなってしまった。そして、病院で「潰瘍性大腸炎」と診断された。

医師からは、「この病気は完治する治療法がまだない難病だけど、頑張って治療していこうね」と言われ、その後難病指定の「特定医療自己負担上限管理表」を受け取った。

その表は毎回受付に出し、何か記載されて戻ってくる。その内容を見て驚いた。そこには、多額の医療費が書かれていた。私は心配になり、焦って母に聞いた。すると、「自己負担額は税金のおかげで少ないから大丈夫だよ」と答えた。この時だ。税金が私を支えてくれている、そう深く実感した出来事は。

その出来事の後、税金は他にもどのようなことで使われているのか気になった。そこで調べてみた。すると、私の身近にもたくさんのことに使われていた。例えば、消防車や救急車、警察など命に関わる大切なことから、上下水道や道路の整備など生活に欠かすことができないものがあった。また、子育て支援や教育費など成長を助けてくれるものもあった。さらに、身近なものだけでなく、海外の道路や病院を作ったり、病院で使う薬や注射器などを送る「ODA」という先進国が発展途上国などの開発及び福祉の目的のために資金を援助する活動に使われていた。税金は、私だけでなく国民も支えており、さらには世界の人も支えていた。これは、社会を支えているといっても過言ではないだろう。

今、治せない病気で、私と比べ物にならないくらい苦しんでいる人が大勢といる。そんな人たちを救うためにも、私たちができることはあるだろうか。私は税金を納めることだと思う。今、世界の医療の技術は益々進化している。実は、医療の技術が進化するのにも税金が使われている。税金を納めることは、一生懸命働いて得たお金が取られてしまうような感覚を持つ人が多いだろう。しかし、日本より税率の高いフィンランドは、世界幸福度ランキングが一位である。これは、フィンランドの国民が、税金は正しい使われ方をされていると知っているからであろう。だから、日本の国民も税金がどのように使われているか、もっと知るべきだと思う。納めることで人の命を救うことができる、役に立っていると思うと、税金を納めているあなたはヒーローではないか。